

REX-R280のLinuxでの動作について

ラトックシステム株式会社

はじめに

本ドキュメントでは、Linux 上で REX-R280 を動作させるための情報を提供しています。

REX-R280 は、LANコントローラとして富士通のMBH86967を搭載しています。このMBH86967に対応したLinuxドライバは、日本で販売および配布されている最新バージョンのLinux ディストリビューションにはほとんど含まれており、ドライバファイル名は、「fmvj18x_cs.o」、ソースファイル名は「fmvj18x_cs.c」となっています。

REX-R280もこのMBH86967対応のLinuxドライバを使用することによりLinux上で動作させることが可能です。

また、rootユーザでログインしてすべての作業を行ってください。

/etc/pcmcia/config の登録内容

/etc/pcmcia/config は PCMCIA Card Configuration Database です。このファイルにREX-R280の情報が以下の書式で登録されています。

```
card "RATOC REX-R280 Ethernet"  
  version "RATOC System Inc.", "10BASE_T CARD R280"  
  bind "fmvj18x_cs"
```

この記述がない場合には、追加してください。

REX-R280 用ドライバ起動の確認

pcmciaのモジュールが起動している状態でカードを装着すると、ピポツという認識音が2回鳴れば、カードの認識とドライバモジュールのロードが正常に行われています。PCMCIA のデータベース (/etc/pcmcia/config) が間違っていたり、カードが正常に認識されない場合は、ブーという音が鳴ります。

/var/log/messages にエラー内容が表示されるので確認してください。

以下は、正常に起動した場合のログ内容です。

```
cardmgr[428]: initializing socket 1  
cardmgr[428]: socket 1: RATOC REX-R280 Ethernet  
cardmgr[428]: executing: 'insmod /lib/modules/2.2.12-32/pcmcia/fmvj18x_cs.o'  
kernel: eth0: FMV-J182, sram 4K TX*2, port 0x100, irq 3, hw_addr 00:C0:D0:55:00:4F  
cardmgr[428]: executing: './network start eth0'  
pumpd[1222]: starting at Thu Jul 6 15:31:10 2000  
pumpd[1222]: configured interface eth0  
cardmgr[428]: + Determining IP information for eth0... done.  
localhost cardmgr[428]: + localhost.localdomain
```

動作確認済みディストリビューションについて

TurboLinux Workstation 日本語版6.0, TurboLinux 4.5
RedHat 6.2, 6.1
Kondara MNU/Linux 1.1, 1.0
Omoikane GNU/Linux

他のLinuxパッケージの情報については、弊社ホームページでご確認ください。

サポートについて

本紙および弊社ホームページに記載のインストール方法のみのサポートを行います。

ネットワークの設定方法については、サポートを行いません。

また、各種パソコンとのLinuxにおける検証を行っておりませんので、パソコン環境に対する動作可否についてもお答えできません。

その他ご不明な点につきましては、弊社ホームページのLinux情報のページからメールにてお問い合わせください。

以上